

浜松ホトニクス中央研究所を見学 －4月度A T I S例会－

A T I S活動の中でも会員に人気の施設見学、今回は東京から少し足を伸ばして浜松ホトニクスさんにお邪魔しました。

浜松ホトニクスと言えば、ノーベル賞を受賞された小柴博士が宇宙からの素粒子（ニュートリノ）をキャッチするために作った「カミオカンデ」の心臓部、光電子増倍管（フォトマル）を提供したことで一躍有名になりました。

ですが、古い電子・光系の研究者にとっては前身の「浜松テレビ(株)」の頃から技術オリエンテッドでユニークな製品を輩出してきたことで一目置かれる存在だったんですよ。

見学は限られた人数で、4班に分かれて中央研究所内に点在する展示コーナーを巡回しながらじっくりと説明を受けていきます。

展示内容は

- ①空間光位相変調素子、
- ②P E T（ポジトロンセンサ）医療応用、
- ③レーザ核融合研究（阪大共研）、
- ④スーパーカミオカンデ模型とマイクロ光電子増倍管、等々。

固有技術を深めて、医学、情報、スポーツ生理学まで広く用途を探索する研究開発型企業の真髄に触れることができました。

光電子増倍管では世界シェア約95%。「カミオカンデ」には同社のフォトマルが約1,000本も使用されているそうです。後継の「スーパーカミオカンデ」ではこれが10,000本以上に増やされているとか。すごいものですね。

最近では医療分野にかなり注力されていて、大学病院と共同で構内に「P E T検査センター」も設立しています。通常7万円以上の検査を、社員は個人データを研究用に提供することを条件に、毎年1万円程度で受診できるそうです。

余談ですが、最近「台湾P E Tパック」もあり、食事込みで国内受診料より安い料金で行ける、とのことでした。美味しい台湾料理を楽しみがてら行ってみましようか。



集合写真・浜松ホトニクス研究所見学